

201201006B

厚生労働科学研究費補助金

政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）

保健活動の質の評価指標開発

平成22年度～平成24年度 総合研究報告書

主任研究者 平野 かよ子

平成25（2013）年 3月

厚生労働科学研究費補助金

政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）

保健活動の質の評価指標開発

平成22年度～平成24年度 総合研究報告書

主任研究者 平野 かよ子

平成25（2013）年 3月

目 次

I. 総合研究報告書

保健活動の質の評価指標開発

平野かよ子（東北大学大学院）

資料 平成22年度 総括・分担研究報告書

資料 平成23年度 総括・分担研究報告書

資料 研究年度終了報告書

II. 研究成果の刊行に関する一覧表

III. 研究成果の刊行物・別刷

保健活動の質の評価指標開発

主任研究者 平野 かよ子（東北大学大学院）

研究要旨 平成22年度は地域保健と産業保健における保健師の活動の質の評価指標を開発するために文献検討を基にして「構造」「プロセス」「結果1」「結果2」「結果3」の5側面からなる評価枠組を設定した。平成23年度から平成24年度においては、地域保健活動として母子保健活動、健康づくり活動、高齢者保健福祉、精神保健福祉活動、感染症対策、難病対策の6領域と、産業保健の保健活動の1領域の評価指標案を作成し、それぞれの評価指標案の適切性と評価の実行可能性について、地域保健活動については全国の市町村と保健所の保健師を対象とし、産業保健については日本産業衛生学会の看護職の会員を対象として調査（デルファイ法）を実施した。調査結果から適切性と評価実行可能性の高い評価指標を抽出し、調査票の自由記載欄の意見・代替案を参考に検討し、各領域の評価指標の完成版を提示した。さらに平成24年度は各領域で共通する保健師のコア活動の評価指標案を作成し、同様な調査を実施した。今後は、全国各地で実際にこれらの評価指標を用いて活動を評価して評価指標の実効性を検証し、実効性の高い標準化された評価指標の開発を図っていききたい。

分担研究者

荒木田美香子（国際医療福祉大学）
上木 隆人（公衆衛生活動研究所H23～
H24）
大神あゆみ（労働科学研究所:H24）
尾崎 米厚（鳥取大学）
小西かおる（大阪大学大学院:H23～
H24）
島田 美喜（地域医療振興協会：H24）
神馬 征峰（東京大学大学院:H23～
H24）
中板 育美（日本看護協会）
春山 早苗（自治医科大学:H23～H24）
藤井 広美（日本保健医療大学:H24）
山口 佳子（杏林大学）
井伊久美子（日本看護協会：H22～H23）
研究協力者
石川貴美子（神奈川県秦野市:H24）

ャピタルを創出することに貢献してきている。しかしその活動の効果、特に質的な効果評価を行う評価指標が開発されていない。

そこで本研究ではAvwedis Donabedianの質の評価枠組を参考として表1に示した評価枠組（構造、プロセス、結果1、結果2、結果3）を設定し、評価指標案を作成し、それらの適切性と実行可能性をデルファイ法で収斂させ、保健活動の領域別の標準化された評価指標と各領域に共通する保健師活動のコアの活動の評価指標を開発することを目的とした。

保健活動の領域は、母子保健活動、健康づくり活動、高齢者保健福祉、精神保健福祉活動、感染症対策、難病対策と、産業保健の保健活動の7領域とした。

A. 研究目的

我が国の保健師は、地域において住民同士で健康問題を解決する地域組織を育成する等の活動を展開し、地域のソーシャルキ

B. 研究方法

- 1) 母子保健活動、健康づくり活動、精神保健福祉活動、感染症対策と産業保健の調査

母子保健活動、健康づくり活動、精神保健福祉活動、感染症対策と産業保健の評価指標案については、平成23年度に適切性と実行可能性について郵送式アンケート調査（デルファイ法一次調査）を実施した。平成24年度には二次調査を実施し、その結果を論議集約し精緻化した。調査対象は、地域保健では、一次調査は無作為抽出した全国の保健所保健師と市町村保健師で、二次調査は一次調査で二次調査に協力する意思を表明した回答者とした。産業保健は日本産業衛生学会の看護職の会員とし、二次調査は同様に一次調査で二次調査に協力する意思を表明した者とした。

2) 高齢者保健福祉と難病対策の調査

高齢者保健福祉と難病対策については、平成24年度に評価指標案を作成し、上記と同様な調査を実施した。この2領域は一次調査のみとした。

3) 保健師のコア活動の評価指標の調査

平成24年度に各領域に共通する保健師のコアとなる活動の評価指標案を作成し、日本公衆衛生看護研究会の会員を主な対象として同様な調査（デルファイ法）を郵送で行った。

倫理的配慮

調査は平成23年度に東北大学医学系研究科研究倫理審査委員会の承認（承認番号：2011-0508）を得て行った。

C. 研究結果

1. 調査結果の概要

上記に述べた調査を実施し、適切性と実行可能性の高い評価指標案を抽出し、自由

記載内容を分析し評価指標案検討した結果、地域保健の6領域と産業保健の1領域の評価指標を完成させた。それらを平成24年度総括研究年度終了報告書の表2、表3、表4、表5、表6、表7、表8に「評価指標—成果物—」として示した。

2. コア活動の評価指標

各保健活動の領域に共通するコアとなる活動の評価指標案の適切性は高いが、実行可能性は概して低い結果であった。

3. 総合的な保健活動（地域組織活動の育成）

これまでに述べた領域別の評価指標の開発と併せ、領域を超えて展開される総合的な保健活動として「地域組織育成活動」を取り上げ論議した。地域組織活動の評価指標は、保健師に係る各事業が展開される流れといった「時間軸」と、各種事業を展開するスタートラインで保健師が地域組織化を意図するといった「保健師の意識・考え」が評価枠組として加味することの必要性について検討し、評価モデルの案として平成24年度総括研究年度終了報告書の図1を作成した。

D. 考察

地域保健活動の母子保健活動と健康づくり活動、高齢者保健福祉、精神保健福祉、感染症対策、難病対策と、産業保健における保健活動の評価指標案の適切性と実行可能性について調査結果を基に論議集約して、コア活動を除く領域の評価指標の成果物を提示するに至った。また、領域に共通する総合的な保健活動である「地域組織育成活動」の評価指標については、構造、プロセス、結果1、結果2、結果3の5側面の評価指

標を再考することの示唆が得られた。

また、この保健活動の評価を推進するには、保健師活動の基本形と保健活動を評価する意義について、ワークショップ等で啓発と活動と併せて行うことの必要性も示唆された。

本研究は全国どこでも用いることのできる標準化された指標開発を目指し、全国の地域保健に従事する保健師と産業保健に従事する看護職を対象として調査したが、調査対象数は少ないことは本調査研究の限界である。今後、本研究で提示した評価指標の成果物を用いて実際に活動の評価し、評価指標の実効性について検証し、標準化を進めることが課題である。

E. 結論

本研究は全国どこでも用いることのできる標準化された地域保健と産業保健における保健師の活動の評価指標の開発をめざし、地域保健活動として母子保健活動、健康づくり活動、高齢者保健福祉、精神保健福祉活動、感染症対策、難病対策、さらに産業保健活動の評価指標案の適切性と評価の実行可能性について調査を実施した。その結果、適切性と評価の実行可能性の高い評価指標を抽出し、各領域の評価指標の成果物を提示することができた。今後は、全国各地で実際にこれらの指標を用いて活動の評価し、評価指標の実効性を検証し、より一層の標準化を図る必要がある。また、保健師の活動のコアとなる領域に共通する活動（地域組織育成活動を含む）の評価指標の開発についても、引き続き進める所存である。

最後に、本研究の調査にご協力下さいま

した全国の保健所および市町村の保健師の皆さま、日本産業衛生学会、日本公衆衛生看護研究会の看護職の皆様、御礼申し上げます。

【参考文献】

- 1) 平野かよ子、地域保健活動の政策評価に関する研究、平成14・15年度厚生労働科学研究費補助金政策科学推進事業、2004
- 2) Avedis Donabedian, 東尚弘訳：医療の質の定義と評価方法、認定NPO法人健康医、2010
- 3) 焦点：看護ケアの質評価と改善～研究の成果と今後の発展に向けて、看護研究、43(5)、2010

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
 - 1) 第70回日本公衆衛生学会
 - 2) 第43回アジア環太平洋公衆衛生学術会議（インドネシア）
 - 3) 第71回日本公衆衛生学会
 - 4) 第44回アジア環太平洋公衆衛生学術会議（スリランカ）
 - 5) 平成23年度国際医療福祉大学学会

G. 知的財産権の取得状況

なし

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金
政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）

保健活動の質の評価指標開発

総括・分担研究報告書

研究代表者 平野かよ子

平成 23（2011）年 3 月

目 次

I. 総括研究報告書	
保健活動の質の評価指標開発	1
平野かよ子 (東北大学大学院医学系研究科)	
II. 分担研究報告書	
1. 保健活動の質の評価指標に関する文献研究	5
平野かよ子 (東北大学大学院医学系研究科)	
2. 公衆衛生活動における質の評価指標に関する研究	27
尾崎米厚 (鳥取大学医学部・環境予防学分野)	
3. ライフサイクル別の保健活動の質の評価指標に関する研究	32
荒木田美香子 (国際保健福祉大学小田原保健医療学部)	
井伊久美子 (日本看護協会)	
中板育美 (国立保健医療科学院公衆衛生看護部)	
平野かよ子 (東北大学大学院医学系研究科)	
4. 疾病別の保健活動の質の評価指標に関する研究	49
山口佳子 (杏林大学保健学部)	
5. 産業保健における保健活動の質の評価指標に関する研究	60
荒木田美香子 (国際保健福祉大学小田原保健医療学部)	
III. 研究成果の刊行に関する一覧表	66

保健活動の質の評価指標開発

研究代表者 平野かよ子（東北大学大学院医学系研究科 教授）

研究要旨

我が国の保健師は、地域において住民同士で健康問題を解決する地域組織を育成する等の活動を展開し、地域のソーシャルキャピタルを創出することに貢献してきている。しかしその活動の効果、特に質的な評価を行う指標の全国的な規模での保健活動評価の質的評価指標の開発はない。そこで本研究では平成22年度に、国内外における保健活動の質の評価指標に関する文献を収集・分析を行った。まず、評価の視座としては、実践者が活動を評価する次元と管理的立場で評価する次元を明確にした。健康課題を解決する活動はライフサイクル別及び疾患別に構造、プロセス、アウトカムで集積・分析し表にまとめた。今後はこれらを実務者および管理者を対象として妥当性、有用性等について意見聴取を行う。

分担研究者

井伊久美子（日本看護協会理事）
尾崎米厚（鳥取大学医学部・環境予防学
分野准教授）
中板育美（国立保健医療科学院公衆衛生
看護部主任研官）
山口佳子（杏林大学保健学部准教授）
荒木田美香子（国際保健福祉大学小田原保
健医療学部 教授）

A. 研究目的

我が国の保健師は、地域において住民同士で健康問題を解決する地域組織を育成する等の活動を展開し、地域のソーシャルキャピタルを創出することに貢献してきているが、その活動の効果、特に質的な効果を評価するための指標が開発されていない。看護師が行う質的指標の開発は、我が国においては菅田¹⁾や上泉²⁾による看護質指標の研究や、井部³⁾による医療安全確保のための看護の人員体制とアウトカム指標の開

発等の質指標の開発等がなされている。保健活動に関する研究としては、島田と平野⁴⁾による地域保健に限定した事業別の地域保健活動の評価指標を集積した研究があるが、全国で活用できる標準化した指標開発はなされていない。

本研究は全国規模でこれまでに開発されている保健活動、主に保健師活動の評価指標の集積を行い、それらを分析し、地域特性を考慮した活動の質を評価する指標を開発する。

B. 研究方法

1. 文献検索

インターネットにより、「地域保健」「産業保健」「学校保健」「保健師活動」「評価指標」「質保証」「測定」をキーワードとして、2000年から2010年の和文献および英文献の検索を行

った。保健活動の質を評価する文献は尾島や、松下、中山の3件程度で少なく、指標開発の考え方を論述し評価尺度が紹介されている図書を抽出することができた。

2. 指標設定の視座・次元

評価指標設定の前提となる評価指標設定の目的と指標設定の視座・次元（ディメンジョン）に関して文献を参考として本研究の指標設定のディメンジョンについて論議を行った。

3. 既存の評価指標の集積

文献等を基に地域保健、産業保健、学校保健の各領域のライフステージ別及び疾患別に、老人保健福祉計画、健康日本21計画、健やか親子21計画等において設定されている指標を中心として集積した。これらを構造、プロセス、アウトカムの観点から整理・分析した。

4. さらにライフステージ別あるいは疾患別では表わされない保健師による世帯単位の活動や世代間交流活動や社会的健康を中心としたQOLの向上に関する指標の設定のあり方、また保健・医療・福祉・介護の融合した活動の指標の集積方法について論議した。

(倫理面への配慮)

本年度の研究は、公表されている既存の情報で対処したため、特に倫理に関する課題はなかった。今後行う保健活動の評価指標に関する調査は、データは匿名性を保持

し、研究代表者が所属する東北大学大学院医学系研究科の倫理審査の承認を得て行う。

C. 結果

1. 医中誌、Pubmed及びYahooより、「地域保健」「産業保健」「学校保健」「保健師活動」「評価」「評価指標」「質保証」「測定」をキーワードとして、2000年から2010年の和文献および英文献の検索を行った。保健活動全般の評価に関するものとしては尾島の1件があり、保健師の活動全般のものとしては松下、小路、中山の3件と少なくなかった。指標開発の考え方を論述し評価尺度が紹介されている図書を抽出することができた。

2. 評価指標設定の前提となる評価指標設定の目的と指標設定の視座・次元（ディメンジョン）は、誰が何の目的でどのくらいの期間の活動を評価するのかで視座が異なり、評価指標の細かさが異なってくることを確認し、以下の3次元を設定することとした。一つ目は実践の場で実務者が日々の業務を振り返り事業の妥当性と効果を測り、次年度計画に反映させるために質的及び量的に評価するもので、比較的短期的な評価の次元である。二つ目は実践の場に近い中間管理者が保健活動・事業の効果・必要性を量的に中期的に評価する次元である。三つ目は組織のト

ップの管理者が保健活動・事業の効果・効率を長期的に評価する次元である。本研究では管理者の視座を考慮しつつまずは実践者が活用できる指標を整理し標準化を行い、順次管理者の視座の指標開発を行うとした。

3. 主に医中誌とPubmedにより地域保健、産業保健、学校保健、保健師、評価指標、質保証、効果側的のキーワードで検索を行った。今年度は和文献を中心に収集・整理し、61件についてライフステージ、疾患、その他に分類し、論じられている指標をドナベディアンの評価枠組みに沿って、構造、プロセスおよびアウトカムに視点で検討を加えた。

4. これらの文献と老人保健福祉計画や、健康日本21計画、健やか親子21計画に示されている指標をライフステージ別あるいは疾患別に集積した。これらも構造、プロセス、インパクト、アウトカムの観点から整理・分析し、さらに論議して指標の追加を行った。

5. ライフステージとしては乳幼児、学童・思春期、成人、高齢者に区分し、健康課題ごとに指標を集積した。

成人については産業保健領域の活動が多いことから、産業保健における保健活動の指標は別途整理した。

6. 疾患別に関しては精神保健福祉、難病、

感染症に区分し、健康課題ごとに指標を集積した。

6. 評価枠組みの構造評価については、地域保健と産業保健に大別し評価指標あるいは評価のポイントと着眼点で整理を行った。

7. さらにライフステージ別あるいは疾患別では表わされない保健師による世帯単位の活動や世代間交流活動、地域のネットワーク形成等の地域の社会関係の強化やそれに伴う人々のQOLの向上に関する指標、また保健・医療・福祉・介護・教育の領域の活動を融合して展開される活動の指標について論議し、今後の課題とすることとした。

D. 考察

評価の視座・次元を整理し、ドナベディアンが提唱する質評価の枠組みである構造、プロセス、アウトカムで集積した指標を検討することで、以下の点が明らかにされた。

1. 用語の整理

保健活動は広域的な領域をカバーするものであり、活動・事業も多様であることから、共同で評価指標の検討を行うに当たり、関連する当面の用語の定義を行った。

(資料1)

2. アウトカムの階層化

昨今多くの管理者が求める評価指標は、事業の効果や財政の経済効率を高めることを目的とするものが多い。そのための評価指標は実践の場で必要とする評価指標を効果・効率の観点で統合し集約した指標となる。そこでこれをファイナルなアウトカ

ム：結果3とすることとした。

実践の場においても効果・効率の観点の指標は必要であるが、しかし、これらは概して長期的な評価期間を要するため、年度ごとの財政で活動する実践の場ではこのファイナルアウトカムに影響する（インパクトを持つ）いわゆるアウトカムが必要で、これを結果2とした。

さらに日々の業務を担いその過程で地域のエンパワメントや部下の人材育成も複合的な目的設定での活動があり、これはアウトカムに影響する（インパクトを持つ）プレアウトカム：結果1とした。

3. 多面的なプロセス評価

保健活動は対象者を複眼的にとらえ、複数の目的を総合して展開することから、プロセスの評価も問題解決過程等を念頭に置く必要があると考え、資料1に示したように、①関連する情報の収集、②情報分析・地域診断、目標設定、③各種計画への位置づけ、④住民への働きかけ（実践）、⑤連携・協働、⑥モニタリング・評価、⑦住民活動の活性化、⑧人材育成の8領域を設定した。これは今後の指標の集積に伴いさらに精緻化を図りたいものである。

E. 結論

ソーシャルキャピタルでありソーシャルキャピタルを創出する保健師の活動の評価指標を開発するために、文献検討などを基

に、評価の視座・次元を整理し、地域保健活動のライフサイクル別及び疾患別に健康課題毎の評価指標を構造、プロセス、アウトカムの枠組みで集積した。また、産業保健活動についても同様な枠組みで集積した。今後は、これらの指標の精緻化を図り、さらに融合型の保健活動を集積し評価指標について検討する。これらの指標の妥当性と有用性について実務者の意見聴取を行い、評価指標の標準化を進める。

F. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

G. 知的財産権の取得状況 なし

【参考文献】

- 1)菅田勝也、看護の質評価研究、1985
- 2)上泉和子、看護Q I 研究、1987
- 3)井部俊子、医療安全確保のための看護人員体制とアウトカム指標の検証、平成16年厚生労働科学 研究費補助金、2004
- 4)島田美喜・平野かよ子、地域保健活動の政策評価に関する研究、平成14.15年度厚生労働科学研究費補助金政策科学推進事業、2004
- 5) Avedis Donabedian, 東尚弘訳：医療の質の定義と評価方法、認定NPO法人健康医

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業）
分担研究報告書

保健活動の質の評価指標に関する文献検討

—和文献を中心として—

分担研究者 平野かよ子（東北大学大学院医学系研究科）

研究要旨：我が国の保健師は、地域において住民同士で健康問題を解決する地域組織を育成する等の活動を展開し、地域のソーシャルキャピタルを創出することに貢献してきているが、その活動の効果、特に質的な効果を評価するための指標は開発されていない。そこで本研究では「保健師」「質保証」「評価指標」「指標」等をキーワードとして国内外の文献検索を行った。和文献として61件が抽出され、それをライフステージと疾患に焦点を当て分析し、かつ構造、プロセス、結果の観点から検討した。保健活動全般の指標に関して検討したものは4件であった。

研究協力者

伊藤 菜見子

（東北大学大学院医学系研究科 大学院修了生）

岡野 恵

（東北大学大学院医学系研究科 大学院生）

A. 研究目的

我が国の保健師は、地域において住民同士で健康問題を解決する地域組織を育成する等の活動を展開し、地域のソーシャルキャピタルを創出することに貢献してきている。昨今の健康問題である生活習慣病予防をはじめ、新型インフルエンザ等の感染症、虐待防止や自殺予防等のメンタルヘルス等の健康危機管理において保健師は成果を上げてきている。また、それぞれの領域の活動の効果評価は部分的にはなされているものの、全国的な規模での保健活動評価の質的評価指標の開発はない。

さらに今後はますます保健と福祉・介護あるいは保健と医療の支援の提供体制は融合される傾向にあり、相乗効果をも

たらしことが期待される。これらの諸組織による活動の複合化は、保健活動単独の効果評価の質的評価指標の開発を必ずしも容易なものとはしないが、保健、福祉、医療の支援方法の独自性は存在することと緊迫した財源の有効活用のためにも、それぞれの活動の単独の効果と相乗効果の双方を図る評価指標の開発は急務である。

本研究では、保健活動を評価する試みが現在どの程度進んでいるのか、現時点での課題は何かということをも明らかにしたいと考え文献検討に取り組んだ。

B. 研究方法

1. 文献検索の範囲

国内文献は医学中央雑誌を使用し、2000-2010年の論文を保健師、質指標、評価指標、指標等をキーワードとして検索した。国外の文献については Pubmed で検索し、2000-2010年の論文を Public health nursing, Community health nursing,

Quality control, Evaluation index, Index をキーワードとして検索した。

2. 指標の分析枠組

質の評価としては、Donabedian (1987) により質の評価の枠組みとして構造 (Structure)・過程 (Process)・結果 (Outcome) の3要素が提示され、ケアの質は相互に関連し合う3要素で成立するとされている。¹⁾ 本研究の文献検討に行うに当たっても、この評価の枠組みを用いた。近澤は「構造の評価とは、ケアの手段やケアが行われている組織の評価であり、施設・設備・マンパワー・財政等の評価を指し、過程の評価はケア自体を評価することであるとされている。また、結果の評価とは、ケアの受け手である患者にもたらされる成果を評価することを言う。²⁾」と述べているが、本研究を行うに当たり、資料1に示したように「目的」「健康課題」「構造」「プロセス」「アウトカム1」「アウトカム2」「アウトカム3」の用語について定義を行ない実施した。(資料1)

C. 研究結果

今年度は和文献について分析を行った。「保健師」と「質保証」、「保健師」と「評価指標」、「保健師」と「指標」のキーワードで検索したところ、表1に示すとおり84件が抽出された。また、「Public health nursing, Community health nursing」と「Quality control」、「Public health nursing, Community health nursing」と「Evaluation index」、「Public health nursing, Community health nursing」と「Index」のキーワードで検索しそれぞれ85件、24件、75件であった。このうち解説や会議録、重複した文献等を除いた28件を分類し、乳幼児2件・学童

2件・成人4件・老年3件・精神3件・難病1件・感染症1件・PHN6件・その他3件であった。

本稿では和文献について行った分析を報告する。

表1 文献数: 検索語別

	質保証	評価指標	指標	計
文献数 (保健師 and)	5	6	73	84

1. カテゴリー別

この84件 (3件重複) のうち解説や会議録を除き61件を分析対象とし、ライフステージ別と疾患別及びその他に分類した。その結果、ライフステージ (乳幼児・学童・成人・高齢者) 28件、疾患 (感染症・精神・難病) 9件、その他 (保健師・教育・その他) 24件に分類された。(表2)

表2 文献数: カテゴリー別

	ライフステージ	疾患	その他	計
文献数	28	9	24	61

(1) ライフステージ別

ライフステージの28件の内訳は、乳幼児4件、学童1件、成人8件、高齢者15件であった。(表3) 文献の概要は資料2に示した。

表3 文献数: ライフステージ別

	乳幼児	学童	成人	老年	計
文献数	4	1	8	15	28

(2) 疾患別

疾患の9件の内訳は、感染症2件、精神は2件、難病5件であった。(表4) 文献の概要は資料3に示した。

表4 文献数: 疾患別

	感染症	精神	難病	計
文献数	2	2	5	9

(3) その他

その他24件の内訳は、保健師10件、教育3件、その他11件であった。(表5) 文献の概要は資料4に示した。

表5 文献数：その他

	保健師	教育	その他	計
文献数	10	3	11	24

2. 指標枠組別

61件の文献について、主な内容に関して「構造」「プロセス」「結果1（プレアウトカム）」「結果2（アウトカム）」「結果3（ファイナルアウトカム）」の枠組みで分類したところ、それぞれ、「構造」20件、「プロセス」24件、「結果1（プレアウトカム）」8件、「結果2（アウトカム）」7件、「結果3（ファイナルアウトカム）」9件に分けられた。

(表 6)

表6 文献数：指標分類別

	構造	プロセス	結果1 (プレアウトカム)	結果2 (アウトカム)	結果3 (ファイナル アウトカム)	計
文献数	20	24	8	7	9	68

※ 複数の指標を含む場合は、それぞれの指標に分けてカウントした。

3. 保健活動全般にわたる指標の文献

上記の文献以外にインターネットゲートルにより収集できたものを含め総合的な保健活動の指標を論じた4件の論文の要約を要約文献1から要約文献4として資料に示した。その4件を紹介する。

(1) 松下光子、市町村保健師に有用な活動評価の方法⁶⁾

市町村における保健活動の評価指標の開発のために、3市町村保健師を対象として、「住民の変化と地域の変化を認識するのはどのようなことからか」と、「変化のもととなった保健師の活動は何か」

「保健師活動の成果とは何とと思うか」

「保健活動は何で評価できると思うか」

について自由記載を主なるものとする質問紙調査を行い、評価指標を探索した論文である。保健師の実践知から指標を創出させようとする新しい試みのものである。保健活動の成果は、①健康に関する数値指標の変化および健康意識・健康行

動の変化と②住民の主体的活動・地域づくりとし、健康に関する指標の変化はの結果であると論じている。

(2) 小路ますみ、広域的システム構築のための要件と保健所保健婦・士における活動指標⁷⁾

保健所保健師がかかわる広域的な地域のシステム形成において必要な要件と評価指標を明らかにするために、3名の保健師への聞き取り調査を行い、5つの要件と「動機・体制づくり」「会議運営」「システム成立時の役割分担」「他の発展的システム構築へ」の4領域の16指標を提示している。複合的な保健活動の指標の開発の参考となるものである。

(3) 中山貴美子、保健専門職による住民組織のコミュニティ・エンパワメント過程の質的評価指標の開発⁸⁾

住民組織がエンパワメントする過程の質的な評価指標の開発を行った論文で、保健師が住民組織に関わる際の組織のアセスメントといったプロセス評価の指標を3領域の14項目を抽出させたものである。エンパワメントの前提として住民組織は民主的な運営がなされることとしている。

(4) 尾島俊之、特集：地域保健活動における評価の現状と課題—保健活動における評価の現状と課題⁹⁾

この論文は上記の3論文とは異なり、地域保健活動の実効性のある効果評価の方法について解説したものである。評価のデザインとしては前後比較デザイン、ケーススタディデザインが主なものとなることを既存の事業評価研究の分析から紹介し、それぞれデザインのメリットとデメリットについて論じている。また、特定健診・保健指導のような大規模な新事業については、倫理性を考慮して実験デザインでおこなうことが望ましいとししている。科学的に厳密な手法で評価

することに加え、一事例を質的にリアルに評価し、住民の心に響く評価も重要であると述べている。

D. 考察

1. ライフステージ、疾患別等の指標

ライフステージ：乳幼児と学童に関する指標は、対象のアセスメントや満足感を図るものが主であった。ライフステージ：成人は生活習慣病予防を目的とした事業プログラムの効果を測る指標が中心であったが、仕事関連の看護師や保健師の健康指標としてストレス度を指標としているものもあった。ライフステージ：高齢者の指標としては、介護予防のプログラム評価や、介護認定、虚弱高齢者の早期発見、訪問指導の効果、QOLの測定、保健師の配置等で、多岐にわたっていた。

疾患別の指標の難病では、対象者のニーズ把握と支援システム構築に関する指標が扱われていた。感染症では予防に対する住民意識を測定するものと結核の定期外健診の対象者の選定の指標であった。精神は就労支援の指標と訪問基準の設定に関するものであった。支援のプロセス評価が多いが、一部保健師の配置や訪問基準などの構造に関するもの見られた。

その他の大半は保健師に関するもので、保健師の諸活動（地区診断、地区組織）の評価や人材育成、事業評価に対する意識、労働環境等で多岐にわたっていた。その他は保健師養成に関するものであった。その他は市町村合併の保健師活動への影響評価、保健計画の評価指標等であった。その他、医療費を保健活動の指標とすることの効果について解説されたもの散見された。

2. 評価枠組別の指標

構造、プロセス、結果の観点で整理し

たものを資料5に示した。

1) 構造について

主な内容が構造のものは20件であったが、構造とプロセスを扱ったものや構造と結果を扱ったものも見られた。

2) プロセス

主な内容がプロセスのものは24件であったが、構造と同様にそれ以外の枠組も扱っていたものもあり、構造とともに捉えているものが3件見られた。

3) 結果

主な内容が結果のものも24件であったが、本稿の分類の結果1が8件、結果2が7件、結果3が9件であった。結果1は事業目的の達成度を測るものが多く、結果2も事業評価であるが比較的長期的な取り組みの結果を示し、中には準実験的な設定で評価指標を検証しているものがあった。結果3の指標は医療費と健康指標としてのDALEの有効性を論じているものであった。

以上の論文指標や評価指標はキーワードで検索して収集はできたものの、論文の目的は必ずしも指標の開発ではないものも多く、これらを参考として指標にすることのできるものを導き出すことが必要と考えられた。

3. 評価指標の開発を目的とした論文

本稿で紹介した評価指標の産出を目的とした論文の松下と小路、中山の論文は、保健活動の実践知を集積し保健活動固有の指標を開発していた。しかし、実践の場において活動・事業を評価する指標は膨大な数になることが予想された。これらを参考としてコアとなるものを収めさせ標準化した指標を創出することの重要性が示唆された。

E. 結論

本稿では収集した和文献61件について、文献が扱った対象者のライフステージと疾患別に整理し若干の考察を加えた。また、61件を「構造」「プロセス」「結果」の評価枠組に沿って大別し傾向を把握した。評価指標の開発を目的とした論文は少なかったが、多くの示唆が得られるものであり、今後の研究に反映させていきたい。次年度には英文文献を指標開発を行った文献を中心として分析結果を提示する。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

G. 知的財産権の取得状況

なし

【資料】

- 1) 資料1 用語の定義
- 2) 資料2 ライフステージ別の文献の要約
- 3) 資料3 疾患別の文献の要約
- 4) 資料4 その他の文献の要約
- 5) 資料5 評価指標枠組別の文献の要約
- 6) 要約文献1 松下光子、市町村保健師に有用な活動評価の方法、岐阜県立看護大学紀要、9(1)、37-44、2008
- 7) 要約文献2 小路ますみ、広域的システム構築のための要件と保健所保健婦・士における活動指標、日本公衛誌49(3)、188-204、2002
- 8) 要約文献3 中山貴美子、保健専門職による住民組織のコミュニティ・エンパワメント過程の質的評価指標の開発、日本地域看護学会誌、10(1)、49-58、2007
- 9) 要約文献4 尾島俊之、特集：地域保健活動における評価の現状

と課題 保健活動における評価の現状と課題、保健医療科学 58(4)、330-337、2009

【参考文献】

- 1) Donabedian, A. :Some basic issues in evaluating the Quality of Health Care, Outcome Measure in Home Care, NLN publications, 3-28, 1987
- 2) 近澤範子、看護ケアの質の評価に関する文献検討、看護研究 27(4)、70-98、1994
- 3) 上泉和子、看護QI開発の歴史、看護研究 43(5)、373-376、2010
- 4) 坂下玲子、構造評価、看護研究 43(5)、377-382、2010
- 5) 鄭佳紅・村上眞須美、過程評価、看護研究 43(5)、383-387、2010
- 6) 桜井礼子・福田広美・栗屋典子、アウトカム評価、看護研究 43(5)、389-394、2010
- 7) 林典子・後藤ひとみ、養護教諭のための自己評価ソフト「STEP-UP」の開発、日本養護教諭教育学会誌 13(1)、37-53、2010

用語の定義

用語の定義	定義
健康課題	保健活動の対象としている地域の健康課題
目的	上記の健康課題について、保健活動を通して達成しようとする状態
指標：構造	<p>保健活動の基盤となるもの：評価者（＝保健活動の実践者）の所属自治体及び保健活動の対象地域における人的・物的・経済的資源やシステムの実態。以下の観点から評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①人材（職種・人数・配置）、 ②施設・設備 ③組織体制 ④記録様式 ⑤活動基準・マニュアル ⑥勤務体制・活動体制 ⑦予算等
指標：過程	<p>保健活動の全過程：PDCAサイクルをふまえて以下の観点から評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> ①関連する情報の収集…日頃の保健活動や既存資料等から、当該保健活動に関連する情報を収集している。 ②情報分析・地域診断、目標設定…①の情報を分析し、地域の健康課題や保健活動の目標を明確に設定している。潜在的な健康課題を発掘している。 ③計画への位置づけ…保健計画や事業計画における当該保健活動の位置づけを明確にしている。当該保健活動を推進できるように保健計画や事業計画を策定・修正している。 ④住民への働きかけ…見守り、相談、訪問、教育、集団化への働きかけ等、当該保健活動において住民に対してどのような働きかけを行っている。 ⑤連携・協働…評価者の所属組織の内外の関係者と連携・協働している。 ⑥モニタリング・評価…当該保健活動のモニタリングと評価を行い、計画や実施の改善につなげている。 ⑦住民活動の活性化…当該保健活動を通して住民活動の活性化を図っている。 ⑧人材育成…当該保健活動を通して関係者や住民等の人材育成を図っている。
指標：結果1	<p>短期目標の達成状況、あるいは結果2の前段階の成果。範囲は個人・家族、集団、関係者等で、直接的なかかわりで把握できる成果</p> <ol style="list-style-type: none"> ①健康に関する知識や技術の習得、健康に関する意識・態度の変化、健康感の変化、保健活動への満足度 ②集団（地区組織・自主サークル）の形成 ③実績：アウトプット（実施回数、件数）等
指標：結果2	<p>活動目的の達成状況：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①行動・習慣の変容（予防接種率・健診受診率、早期受診率、早期相談率、受支援行動の増加、生活習慣：適正体重者率、歩数） ②介護認定率、虚弱高齢者率 ③QOLの向上、人間関係の変化：孤立者の減少 ④事業の創設・充実 ⑤地域の仕組みの修正・創設、ネットワークの構築
指標：結果3	<p>いくつかの結果2の集成としての成果、経済性や効率の観点で集約された成果、あるべき姿の達成状況</p> <ol style="list-style-type: none"> ①健康度（平均余命、健康寿命、死亡率、自殺率、罹患率、有病率） ②医療費 ③費用対効果 ④波及効果等

資料2 ライフステージ別

ライフステージ	著者	年	検索語(保健師×)	タイトル	雑誌	キーワード	指標の分類	概要
1	乳幼児	固定千津子(国立長寿医療センター研究所生活機能賦活研究部), 大川弥生	2007	指標	ICFを保健師活動に発達障害をICFでみる	地域保健	P	子供の発達を「できる活動」と「している活動」に分けて考える。ICFに沿って、他職種等とも共通言語として、共通認識の確立とチームワークに役立つ。
2	乳幼児	高野さほ子(山梨県立中央病院総合相談センター保健指導科), 守屋まき子, 山崎久美子	2005	指標	病院内における乳幼児虐待リスクアセスメント指標の有効性について	山梨県立中央病院年報	P	病院内の乳幼児虐待を「保健分野における乳幼児虐待リスクアセスメント指標」を用いたアセスメントを試み、看護士の「気になる」項目をカテゴリ化した。虐待ハイリスク群と判断した主な養育者として、保健師介入の受け入れ度合いに有意差が確認できた。子供が望ましい育育環境で育つためには地域関連機関とネットワークを組んで行うべきである。
3	乳幼児	片川久美子(飯橋区立志村健康福祉センター), 小林淳子	2005	指標	乳幼児健康診査に対する母親の満足感を測定する質問項目の検討	保健師ジャーナル	O	乳幼児健康診査への満足感に関連する要因として、「構造」「過程」を評価する質問項目を検討することを目的とした。自記式質問紙を配布して母親を分析対象とした。抽出された各因子はいずれも高い信頼性が示され、「総合的な満足感」の得点と有意な相関が見られた。
4	乳幼児	澤田和美(東京医科大学保健衛生学研究所), 川口千鶴, 奥野順子, 石川霞里子, 日沼千尋, 谷水綾子, 平川康	2003	指標	乳幼児の事故に関連する要因	小児保健研究	P	質問紙調査から得られた乳幼児の事故経験と、乳幼児健康診査から得られる指標との関連を検討した。事故経験のある児は、それまでの健康診査で保健師により何らかの問題点があるとアセスメントされていた児が多く、年下の同胞がいる児が多かった。事故は男児に多く発生し、事故経験と関連する要因は性別によって異なっていた。
5	学童	上野好江(大阪府立看護大学), 橋本野裕美, 鈴木敦子, 加藤暁子, 佐藤拓代	2005	評価指標	保健機関における親支援の取り組み状況	子供の虐待とネグレクト	P	保健所の虐待あるいはその疑いがある親へのグループ支援の実施状況とその内容を把握した。保健師等に質問紙調査を行い分析した。親の変化は現れにくく、長期的、多面的な評価が必要であり、親とスタッフの変化を含めた評価指標の開発が課題である。
6	成人	山門賢三(三井記念病院総合健康センター)	2009	指標	特定健康診査・特定保健指導の問題点と今後の対応	日本職業・災害医学会誌	S, O pre	特定健康診査での問題点と対応についての検討。診断時は薬物療法の前、保健指導としての生活習慣改善指導を優先すべきであり、電子情報処理システム構築、健康判定値とクレンジング項目追加が不可欠である。
7	成人	松江好恵(国民健康保険厚労立志徳病院リハビリテーション科), 原文香, 片岡圭一, 荒木茂, 京井俊典, 寺西衣雄	2008	指標	医療機関で治療中の患者に対する内臓脂肪肥満への理学療法士の介入	石川県理学療法学会誌	P	主に理学療法士の活動から、健康支援教室の介入前後の基本データ・血液データ・身体テストデータの変化を比較検討している。保健師は、食事調査を行い、主食や副菜など聞き取り調査を行った。
8	成人	奥村政彦(セコムIS研究所), 熊木広信, 土肥誠太郎, 武蔵孝司	2007	指標	生活習慣病予防プログラム継続率と介入頻度との関係分析	日本遠隔医療学会	O pre	多数の対象者の保健指導を行うためには、ITを有効に活用しながら生活習慣の改善を支援する必要がある。この保健指導の最も必要な指標は、ITツールを使ったプログラムをいかに継続させるか、ということであり、一定以上の継続率が得られるような支援方法など検討する。病院内の企業にITツールを導入し、支援方法ごとに継続率の比較検討を行い、継続率が高まる要素の検討も行った。
9	成人	五十嵐久美子(札幌市中央健康づくりセンター), 森田恵理, 藤田久美子, 山崎智美, 佐竹恵治, 金沢奈緒美, 神田孝一, 西島宏隆	2005	指標	生活習慣病に対する運動の効果に伴うQOLの変化と副作用の発生 札幌フィットネスクラブ研究	日本健康教育学会誌	O	札幌のフィットネスクラブで運動効果を検証する無作為比較対照試験を行い、運動実施に伴う副作用の調査。有酸素運動能との正の比例関係はQOLの向上が運動そのものの効果である。運動で生じる体調不良や新たな痛みの発生は有意差が無く通常の範囲内でも起こるとみられる。

ライフステージ	著者	年	検索語(保健師×)	タイトル	雑誌	キーワード	指標の分類	概要
10	成人	服部園次(和歌山県立医科大学附属病院), 水田真由美, 西林富子, 谷眞子	2004	指標	和歌山県下の子職員のメンタルヘルスに関する実態調査	日本看護学会論文集: 精神看護	S	看護師のストレッサーには、一般的なストレッサーと看護師特有のストレッサーがある。ストレス反応には自尊感情とソーシャルサポートの関与が指摘されている。自記式質問紙を用いて調査をし、経過年数1年未満がストレス反応が最も高く、能力的な問題のストレッサーが高かった。また、同僚同士のサポート体制を検討する必要がある。経過年数15~19年では、看護師特有のストレッサーが高かった。
11	成人	中田康夫(神戸大学医学部保健学), 石川雄一, 津田紀子, 福山美代子, 谷真里江	2004	指標	職場の定期健康診断におけるウエスト測定と肥満の指標・血圧・血液検査値との関係を明らかにした。ウエストは、WHR・BMI・体脂肪率・血清総コレステロール・中性脂肪値・血糖値と正の相関を示した。HDLコレステロールとは負の相関を示した。職場の健康管理では、ウエストが増加しないように適切な指導が必要である。	保健師ジャーナル	O pre	職場の定期的健康診断時におけるウエスト測定の意義を検討するために、ウエストと肥満の指標・血圧・血液検査値との関係を明らかにした。ウエストは、WHR・BMI・体脂肪率・血清総コレステロール・中性脂肪値・血糖値と正の相関を示した。HDLコレステロールとは負の相関を示した。職場の健康管理では、ウエストが増加しないように適切な指導が必要である。
12	成人	中田康夫(神戸大学医学部保健学), 石川雄一, 津田紀子, 福山美代子, 谷真里江	2004	指標	職場の定期健康診断における全身持久力測定と肥満の指標・血圧・血液検査値との関係を明らかにした。全身持久力は、BMI・体脂肪率・WHR・ウエスト・血清総コレステロール・中性脂肪値と負の相関を示した。定期健康診断時にあわせて、生活習慣予防や労働災害の予防にもつながることから、全身持久力を測定することは意義があると考えられた。	保健師ジャーナル	O pre	職場の定期的健康診断時における全身持久力測定の意義を検討するために、全身持久力と肥満の指標・血圧・血液検査値との関係を明らかにした。全身持久力は、BMI・体脂肪率・WHR・ウエスト・血清総コレステロール・中性脂肪値と負の相関を示した。定期健康診断時にあわせて、生活習慣予防や労働災害の予防にもつながることから、全身持久力を測定することは意義があると考えられた。
13	成人	竹内一夫(高崎健康福祉大学健康福祉学部保健福祉学), 鈴木正宏, Roberts Catherine R.	2003	指標	保健師・市町村保健師における仕事関連健康指標の年齢別差異について	高崎健康福祉大学紀要	S, O pre	仕事関連要因が保健師・市町村保健師の心身の健康面に及ぼす影響の問題点を、病院看護師との比較により、浮き彫りにする研究。全般的に保健師は看護師と比べ仕事ストレスは低い。しかし現場の業務量は低く、30歳前半から周囲のサポートが低下する傾向があり、40代後半から改善する。
14	高齢者	櫻庭けい子(千葉市高齢者部介護保健課), 吉本照子, 緒方泰子	2010	質保証	介護認定における認定調査員の判断基準の解釈を共有化するしくみづくり	保健医療科学	S	介護認定調査員が的確な介護認定調査を実施するために、認定調査の判断基準の解釈のバラつきをなくし、共有するしくみを作る研究。保健師等の専門職が選んでいる支援などの意見を交換する掲示板Aと、各意思事項の解釈を掲示板Bを使用し、納得した判断基準の解釈の共有を行った。
15	高齢者	佐々木明子(東京医科大学保健衛生学研究所), 小野ミツ, 高崎利子, 田沼察子, 中島淑江	2009	指標	地域の高齢者虐待の予防と早期発見における保健師の役割と対応上の困難	お茶の水看護学雑誌	S	保健師を対象に、1グループ6、7人からなる2グループに対してグループインタビュー調査を行った。虐待予防・早期発見・対応時の困難・その対応についての意見が出た。高齢者虐待への判断根拠の明確化と情報の共有、住民や関係者等との連携強化、スーパーバイザーの支援が受けられる体制づくりが重要である。
16	高齢者	栗盛須雅子(茨城県立健康プラザ企画情報部), 福田吉治, 大田仁史	2009	指標	DALE・WDPの高齢者健康施策への活用方法	保健師ジャーナル	O final	DALE・WDPの計算結果を用いて、地域の高齢者の健康水準の評価と健康課題の読み取り方を紹介。5市町村で高齢者間の健康水準の違いが広がることがわかった。
17	高齢者	栗盛須雅子(茨城県立健康プラザ企画情報部), 福田吉治	2009	指標	DALE・WDPの基礎知識	保健師ジャーナル	O final	DALE・WDPの基礎的な概念と計算方法、上位と下位の郡道府県別の値、高齢者健康施策への活用。これらから地域の健康課題、介護予防事業、費用安定化への施策策定に活動できる。
18	高齢者	菅原峰子(新潟県立看護大学), 北川公子, 龍野子, 斎藤晋子, 中島紀恵子	2008	指標	豪雪地帯に暮らす後期高齢者の健康と生活の質に関する研究	保健師ジャーナル	P	自立度の高い75歳以上の高齢者を対象に、面接聞き取り調査をした。80歳以上で心身の脆弱化が見られ、生活は同居家族により成り立っていることが分かった。独居・高齢夫婦のみの世帯に対する支援策の必要性が示唆された。
19	高齢者	高波利恵(大分県立看護科学大学), 坂城看護学講座保健管理理学研究室), 緒原祥子, 木村厚子, 草間朋子	2007	評価指標	基本健康診査で実施可能な全身持久力測定方法の検討	保健師ジャーナル	O	高齢者と若者を被験者にして、全身持久力測定として、足踏みを行い、その際の心拍数やSPO2等の循環器指標を評価指標とするに着目した研究。高齢者に関しては、より運動負荷が大きいことが分かった。
20	高齢者	久保田見生(静岡県総合健康センター健康科学課), 水田明子, 杉山眞直, 藤田信, 高田和子, 太田詩城	2007	指標	高齢者におけるQuality of Lifeの概念的変遷に関する研究 静岡県高齢者保健福祉局域別の検討を中心として	厚生労働省社会生活指標調査	O final	高齢者のQOLを構成する要素が6年間でどのように変化するかが明らかにし、地域別に6年間のQOLの変化と、社会生活指標との関連を分析し追加検討した。高齢者のQOLは6年間で加齢とともに低下することが明らかになった。QOLの概念的な変化では保健師教育等有意な関連を示した。保健師が多いほど、高齢者のQOLの維持・向上にとって重要な役割を果たしている可能性がある。

ライフステージ	著者	年	検索語(保健師×)	タイトル	雑誌	キーワード	指標の分類	概要
高齢者	神山吉輝(昭和大学 医学部公衆衛生学教室)、小出昭太郎、川口毅、青木啓子	2007	指標	保健師の支援による高齢者の食生活の変化および医療費推移との関連	厚生省の指標	食生活、高齢者、保健師、訪問指導、行動変容、医療費	O	保健師の食生活指導について、高齢者の行動変容と医療経済効果の面から評価した。指導があったことで、食生活行動が変化していた者は累積総医療費が低く、指導が無く食生活が変化していた者は医療費が高かった。食生活指導後の食生活行動の変化が、医療費の削減につながる可能性が示唆された。
高齢者	羽原美奈子(日本赤十字北海道看護大学)、俣原千穂、眞流淳子、北山明子、大西草恵	2007	指標	保健師の家庭訪問に関する海外文献の検討	日本在宅ケア学会誌	保健師、家庭訪問、海外文献	P	保健師の高齢者への訪問指導は件数が減少し、保健師による家庭訪問活動の意義や効果が今まで以上に厳しく問われる状況となっている。欧米諸国と海外においては、どのような流れや傾向があるのかは明らかにされていない。海外文献では家庭訪問に関して肯定的な報告がなされ、家庭訪問活動の意義を再認識した。
高齢者	木村厚子(大分県立看護科学大学 保健管理栄養学研究室)、山本千夏、山田祐子、草間朋子	2007	指標	高齢者の全身持久力を評価するための3分間足踏み歩行についての考察	保健師ジャーナル		O pre	高齢者の全身持久力を測るために、「3分間その場足踏み歩行」を実施し、前後の心拍数・血圧・末梢血酸素飽和度の変化に着目し、この運動が全身持久力の運動負荷として適切であることがわかった。Maxでは女性が高く、有意な性差が認められた。実施前後のSBPは実施後が有意に高かった。生理学的指標では、実施後の収縮期血圧の増加が有用であることが明らかになった。
高齢者	岩本里織(神戸市看護大学)、岡本玲子	2004	指標	保健師の対象発見方法に関する研究 介護予防活動の対象発見に焦点を当てて	日本地域看護学会誌	介護予防、保健師、対象発見、住民組織、高齢者	P	介護予防活動担当の保健師10名に半構成的質問紙を用い面接した。対象発見には、I 対象を顕在化する個別の情報、II 対象が潜在する住民の情報から対象を発見するという2つに分類された。介護予防ニーズをもつことが明瞭な対象だけでなく、それを持つことが推測できる対象からの情報、対象が潜在する住民からの発見方法を体系的に整理した。
高齢者	福田英輝(大阪大学 大学院医学系研究科社会環境医学講座)、新庄文明、中西雅幸、高島毛敏雄、多田雅浩三	2004	指標	全国市町村における老人人口割合と健康手帳の活用状況との関連	日本公衆衛生雑誌	老人人口割合、健康手帳、保健師	O pre	市町村の保健事業が、健康の多様化に対応して的確に推進できているかどうか、健康手帳の活用状況から明らかにする研究。健康手帳の活用指標が4項目以上のオッズ比は、老人人口割合区分・保健師数区分が大きくなるほど有意に大きかった。保健事業は老人人口割合が高くなるにつれて推進され、一定数の保健師確保が必要であることが示された。
高齢者	水田智子(東京大学 大学院医学系研究科地域看護学)、村嶋幸代、春名めぐみ、北川定謙、倉持一江、古谷草恵、堀井とよみ、湯澤まきみ、田上豊	2003	質保証	介護保険施行後の保健活動に関する調査	日本公衆衛生雑誌	介護保険、保健師活動、質保証、地方自治体	S	介護保険業務への保健師の配置や関与状況の調査。自治体規模で保健師の介護保険への関わり方は大きく異なる。保健師の配置と、質保証(サービス)に関する業務の実施に関連があることが示唆された。
高齢者	梅津初子(入善町健康交流プラザ 保健情報室)	2003	指標	【地域における痴呆の早期発見と対応】 保健師の役割	老年精神医学雑誌	地域における痴呆予防活動の必要性、人材育成、かかりつけ医との連携、痴呆の早期発見・早期対応のネットワークとシステム	S	富山県の人形町の高齢者に、高齢者健康調査をし、その中の家族が痴呆と判断した203人に、老研式活動能力指標の知的能動性を調査した。年齢関連認知低下(AACD)の割合は、痴呆予備群の80.4%であった。知的能動性が低いほどAACDの割合が高くなること、高齢になるほどAACDの割合が高くなることがわかった。効果的な痴呆予防を進めるためには、実践する仕組みづくりが重要である。
高齢者	月岡関夫(月岡内科病院)	2003	指標	【地域における痴呆の早期発見と対応】 群馬県における「もの忘れ検診」について	老年精神医学雑誌	都市医師会、住民基本検診、かかりつけ医、行政の協力、鑑別診断施設	P	群馬県医師会は「もの忘れ検診」プロジェクトを発足させた。目的は痴呆の早期発見であり、住民基本検診と同時に実施し、かかりつけ医が中心となる活動である。脳健康度チェックリストとMSQを使用し、もの忘れ検診を行った。痴呆以外に「うつ病」を患っている人も多く、最終診断の結果は今後の課題であり、保健師の痴呆に対する知識や検診の意義を理解させる必要がある。